



学校だより

令和8年6月22日

# 夢中がいっぱい左近山の子

横浜市立左近山小学校  
Sakonjama

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来（公/開）～

7月号

## 余白をたいせつに

ふくこうちょう たみや まさき  
副校長 田宮 真樹

学校では体カテストが一段落したことで、ライン保護のために使えなかった校庭で遊べるようになり、子どもたちは元気いっぱい体を動かしています。子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を見ると、こちらも笑顔になります。

ところで、遊びにはもう一つ意味があります。「ゆとり」とか「余白」の意味での遊びです。私はドキュメンタリー番組を観るのが好きなのですが、以前、オランダの絵本作家、ディック・ブルーナさんの特集を放送していて、なるほど!と思ったことがあります。「ミッフィー」の作者で知られるブルーナさんの描く絵はとてもシンプルで、ブルーナカラーと言われる6色しか使いません。そして、余白を大切にしています。読む人に想像の余白を残しておくことで、描かれた内容以上のものを自由に見られるようにする意図だそうです。余白には、目や心をほっと休ませるような効果もあるように思います。番組を観てからは目に見える余白だけでなく、心の余白についても考えるようになりました。

私自身、担任をしているとき、常に100%の力で子どもと接していると、目の前のことに一生懸命になりすぎて、大切なことを見逃してしまうことがありました。例えば、頑張っている子に対して、もっとできるようになってほしいとの思いから、頑張りを認めるどころをさらに叱咤激励したり…。心に余裕が無いとだめだな、と何度も反省したものです。

6月15日(月)の朝、学校保健委員会作成のテレビ放送で、子どもたちや高橋スクールカウンセラーから「リフレーミング」の紹介がありました。リフレーミングとは、物事の捉え方や枠組み(フレーム)を意識的に変え、同じ事を別の視点から捉え直してネガティブな解釈をより望ましい解釈へと変える心理学的な思考法です。例えば、「おせっかい」をリフレーミングすると「友達に優しくできる」となります。自分のことであれば、自分をポジティブに考えられるし、他人のことであれば、長所に目を向けることによって、人間関係がより円滑になるでしょう。このリフレーミングも、心の余白があるからこそ、ふと立ち止まって考えられるのではないのでしょうか。

最後に、連合自治会の会合に出席して、わかったことと気づいたことを一つずつ、左近山地区に絵本作家の方がお住まいだとわかりました。どんな作品なのだろう、と興味津々になりました。それと、この学校だより、熱心にファイリングをされている方から、穴を開ける余白がほしいとリクエストがありました。ここでも余白が大切だったか!と、思わず膝を叩いてしまいました。夏休みまであと1か月。今一度余白を意識してがんばろうと思います。

### ◆学期末及び学年末の評価について◆

今年度より、児童の学期末及び学年末の評価について次のようにいたしますので、ご理解をいただきますよう、よろしくお願いいたします。一般学級では、前期には各教科の評定のみを記した「あゆみ」を渡します。後期には評定に加えて、所見を記載したものを渡します。なお、所見については、これまでの「外国語活動」「道徳」「総合的な学習の時間」の所見を取りやめ、総合所見のみ記載いたします。個別支援学級では「あゆみ」を取りやめ、「個別の指導計画」に各教科・領域ごとの評価や一年間の成長の様子を記載したものを年度末に渡します。個別支援学級の児童の評価については、本日配付いたします「個別支援学級における指導計画及び評価について」をご確認ください。

【留守番電話設定】平日16時45分から翌朝8時15分までは留守番電話を設定しています。